

2026 年度(令和8年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 51	福山市立長浜小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月14日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>主体的な学びや地域と関わる教育活動は各校で進んでいる。一方で、その成果や目指す子供像の共有は十分とは言えず、連携は協力段階にとどまっている。今後は、発信の充実とビジョンの共有を図り、地域と協働して子供を育てる体制づくりが求められる。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>学力の定着が不十分で、特に思考力・表現力に課題がある。</p> <p>不登校や登校渋りが微増傾向にあり、取組を継続している。</p> <p>探究的な学習について校区で推進しており、児童生徒が自ら問いを立て探究する姿が増えてきている。</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「自己・他者理解力」</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。</p> <p>「自ら考え学ぶ授業」を実践するため、小中合同の研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的・探究的に学ぶことができる学校をめざす。</p> <p>探究的な学習の充実に向け、小中で連携して9年間のカリキュラムを構想するとともに、「子どもの声から」「机からの脱却」「本物に触れる」(地域連携を含む)を意識した取組を行う。</p>
---	--	--	---

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 夢に挑戦 ～スマイル&チャレンジ～</p>

<p>現状</p> <p><児童></p> <p>生活科や総合的な学習の時間での学びや、縦割り班での活動、学校行事への取組を通して、児童の「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「自己効力感」につながる意識は、向上してきている。しかし、日々の友達や周囲の人との関わりの中で、相手意識のある行動やコミュニケーションが乏しい状況がみられる。より広い視野で、お互いに分かり合うことができるよう、より細やかな支援が必要である。</p> <p><授業></p> <p>児童が主体的に学びを広げていけるよう、授業改善を進めた結果、約90%の児童が、学校での授業や運動、友達との学び合いに対して、肯定的な振り返りを行っている。しかしながら、学力調査の結果からは、正答率40%未満の児童の割合が、どの学年も高い状況が見て取れる。学力の確実な定着を図るとともに、児童自らが「問い」を見つけ、学んだことを生かして自ら学びのサイクルを回すことができるように、多様な方法で探究する学びの環境を整備し、児童が自分の成長を実感できる教育活動へと取組を進めていく必要がある。</p>

<p>育成する資質・能力</p>	<p>学びに向かう力・課題発見・解決力・自己効力感</p>	
<p>めざす子ども像</p>	<p>学びに向かう力</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を決め、粘り強く取り組む。 自らを振り返り、次の学びにつなげ、学び続ける。 <p>課題発見・解決力</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲の人や友達と関り、話をよく聞き、自分の考えをもつ。 自ら「問い」を見つけ、自分なりの工夫をしながら課題解決をしていく。 <p>自己効力感</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲の人や友達と関わりながら、自分の良さや友達の良さに気付く。 自分のやりたいことに挑戦する。 	
<p>研究</p>	<p>テーマ</p> <p>児童が自ら「問い」を見つけ、課題解決に向けて探究し続ける授業の創造</p> <p>内容等</p> <p>「本質的な問い」を意識した単元計画の構想(算数科を中心に)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何のために学ぶのか、各教科の目標、身に付けさせたい力などを明確にした上で、単元構想を立てる。 授業づくりレポートを活用し、自分の学びを振り返り、学びのサイクルを自分で回せるようにする。 	
<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童自らが「問い」を見つけ、児童自らが学びのサイクルを回しながら探究していく授業 単元のゴールを見通しながら、学びの振り返りを書けるようになる授業。 単元の導入や終末を工夫し、学んだことをもとに、生活場面や一人一人の納得解につながる方法を考える授業 分かりやすく説明したり表現したりする力を、向上させることができる授業 	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	児童が自分の成長を実感でき、主体的・探究的に学び続ける授業づくりの推進	★	新規	学力の確実な定着を図るとともに、児童の「問い」を大切にしたい、探究的な授業づくりをする。	○理論研修・教材研究・研究授業・ポートフォリオ交流の定期的な実施 ○朝学習の効果的な活用 ○「本質的な問い」を踏まえた単元の構築	○学期末テストの正答率40%未満の児童が10%以下 ○進級テストで、自分が立てた目標達成80%以上 ○年間1人2回の研究授業を行い、うち1回は生活に根差した課題に取り組む授業を行う。								
7	児童同士のつながりを深め、自己指導力を高める教育活動の推進		見直し	自己を認識し、夢や目標を自分で選び、周囲と協働して取組を進めることができる。	○一人一人が目標を設定し、実践、振り返りをする。 ○学校行事等において、学級、相学年で目標を設定、実践、振り返りをする。	○「夢に挑戦」、行事等の目標達成率80%以上 ○「自分にはよいところがある」と回答する児童85%以上								
2	子ども主体の健康・体力づくりの推進		見直し	自分の生活・体力づくり等の課題に気づき、自己目標の達成に向けて主体的に取り組み、振り返ることができる	○自分で決めたメディアの使用時間を守ることができる。 ○体力テストで課題になった項目の改善を図る。	○ふり返りカードで目標時間を設定し、達成率80%以上 ○体力テストで課題になった項目の改善率75%以上								
2	参画意識の高揚につながる働き方改革の推進		見直し	職員が自分の持ち味を生かして、校区の特徴を生かした教育活動の充実を図ることができる。	○心理的安全性のある職場風土の醸成を進める。 ○校区の中で、体験を活かした探究的な学習活動を展開していく。	○「自分の個性が認められている実感がある」肯定的回答80%以上 ○地域の特徴を生かした授業を年間3回以上実施する。								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。